

山形県内の鉄道年表（仙山線）

令和7年11月現在

年	月日	事項
大正8 (1919)	12.	県議会、山形～仙台間の鉄道敷設促進について内務大臣あて意見書提出
大正12 (1923)	3.	第46回帝国議会で12年度及び13年度に着工すべき路線として承認される。 大正12年着工が決定するも関東大震災により繰延べ。 （仙台～作並間を仙山東線〔大正15年4月着工、昭和6年8月開通〕、羽前千歳～山寺間を仙山西線と呼称） （山形側、終端駅問題による紛糾で着工遅延）
昭和8 (1933)	10.17 12.4	仙山西線 <u>羽前千歳～山寺間開通</u> （昭和7年9月着工、 <u>羽前千歳、楯山、山寺の各駅開設</u> ） 私設仙山線建設を目的とする仙山鉄道株式会社創設（資本金550万円）
昭和12 (1937)	11.10	仙山東線 <u>山寺～作並間</u> （含む面白山トンネル：工費230万円、全長5,300m部分は昭和8年10月着工、面白山仮乗降場開設） <u>kaituu</u> 、 <u>仙山線と改称し全線開通</u> 作並～山寺間電化（直流）
昭和25 (1950)	7.1 8.3	<u>高瀬駅開設</u> 豪雨のため面白山トンネルの崩壊や線路沈降などにより不通（約4週間）
昭和29 (1954)	3.7	国鉄交流電化委員会、仙山線を交流電化することに決定 （昭和29年10月の北仙台～作並間第1期交流電化試験を経て、昭和32年9月5日仙台～作並間交流電化）
昭和35 (1960)	11.1	<u>山形～山寺間電化（直流）により全線電化</u> 仙台～新潟間に準急「あさひ」運行開始（1往復、山形～米沢間準急「たざわ」、「もがみ」と併結：昭和37年7月15日 1往復増発、昭和41年3月 急行に格上げ、昭和57年5月1日「べにばな」と改称、昭和60年3月14日 山形～新潟間急行列車化、平成3年8月27日 乗り入れ廃止） 仙台～酒田間に準急「月山」運行開始 （1往復、仙山線内は「あさひ」と併結運転：昭和41年3月 急行に格上げ）
昭和38 (1963)	10.1	仙台～山形間に準急「仙山」運行開始（3往復：昭和43年10月1日急行に格上げ）
昭和43 (1968)	9.8	作並～山形間交流電化により <u>全線交流電化</u>
昭和46 (1971)	4.1	高瀬駅が停留所化、山寺駅が旅客駅化（貨物取扱廃止）
昭和57 (1982)	6.23	仙台～山形間に快速「仙山」運行開始（3往復、急行「仙山」の快速化：昭和60年3月14日 6往復に増発、うち仙台～山形ノンストップ快速列車1往復〔所要時間59分〕：昭和61年3月1日 7往復に増発：昭和61年11月1日 8往復に増発、うち1往復は上ノ山まで延長運転）
昭和58 (1983)	4.1	山寺駅が業務委託駅化
昭和59 (1984)	2.1	荷物営業廃止線区となる。
昭和60 (1985)	3.14	全線CTC化
昭和61 (1986)	10.1	楯山駅が停留所化（貨物取扱廃止）

山形県内の鉄道年表（仙山線）

令和 7 年11月現在

年	月日	事項
昭和62 (1987)	12.12	面白山駅舎改築
昭和63 (1988)	3.13	面白山駅を「面白山高原駅」と改称
平成2 (1990)	3.10	駅設備等の改良により最高スピードがアップ（95km/h）。仙台～山形ノンストップ快速列車（所要時間51分）
	9.1	快速「仙山」が11往復に増発され、1往復が新庄まで直通運転化
平成4 (1992)	7.1	快速「仙山」が8往復に減便され、奥羽本線への直通運転は廃止
平成5 (1993)	3.1	山寺駅が再び旅客駅化
平成6 (1994)	9.30	台風26号による大雨で奥新川～面白山高原間で100mにわたり路盤が流出し、作並～山寺間が不通となる。（平成6年11月28日復旧）
	12.3	快速「仙山」が8往復から11往復に増発される。これにより、山形～仙台間の普通列車は8往復から5往復に減便される。（山形～仙台間の列車運行は16往復）
平成7 (1995)	12.1	快速「仙山」が11往復から12往復に増発される。これにより山形～仙台間の普通列車は5往復から4往復に減便される。（山形～仙台間の列車運行は16往復）
平成9 (1997)	3.22	快速「仙山」が12往復から13往復に増発され、これにより山形～仙台間の運行列車は普通列車4往復と合わせて17往復となる。
平成10 (1998)	3.14	ノンストップ快速「仙山」所要時間51分になる。
	12.8	ノンストップ快速「仙山」廃止。快速は、北山形駅、山寺、北仙台停車。所要時間56分。
平成11 (1999)	12.4	快速「仙山」停車駅拡大。北山形駅、山寺、北仙台に加え愛子、作並にも停車（所要時間61分）
平成13 (2001)	4.1	旧型車両（455系）を近郊型車両（719、701系）に置換 休日ダイヤの導入（快速「ホリデー仙山」の愛称） 特別快速列車の新設（仙台～山形間57分、停車駅：北仙台、山寺）
平成14 (2002)	3.23	休日ダイヤを土曜日へ拡大し、「土休日ダイヤ」とする。
	12.1	平日の快速列車の「面白山高原」への停車拡大
平成15 (2003)	10.1	快速列車の停車駅パターン見直し（平日休日とも4パターン化）
平成16 (2004)	3.13	山形駅の列車発番線の統一 停車駅の拡大（面白山高原駅に全列車停車）
	10.16	快速列車の運転区間の拡大（1往復 仙台愛子間→仙台山形間） 快速列車の停車駅拡大（羽前千歳駅） 快速列車（下り1本）を普通列車化
平成17 (2005)	12.10	山形新幹線・東北新幹線からの接続改善
平成19 (2007)	4.23	新型車両E721系導入
平成20 (2008)	11.7	E721系ローレル賞受賞（JR東日本、仙台空港鉄道）

山形県内の鉄道年表（仙山線）

令和 7 年11月現在

年	月日	事項
平成25 (2013)	10.1	山寺駅が業務委託駅化
平成26 (2014)	4.1	山寺駅でSuica利用開始
	10.8	仙山線鉄道施設群（仙山隧道、山寺駅転車台など）土木学会「選奨土木遺産」認定
平成27 (2015)	3.14	快速列車の「面白山高原駅」停車取りやめ
平成29 (2017)	10.14	701系定期運行の終了
平成30 (2018)	9.8	仙山線全線交流電化50周年
令和5 (2023)	3.16	北山形駅バリアフリー化（エレベーター、連絡通路の整備）
令和6 (2024)	3.16	羽前千歳駅、北山形駅でSuica利用開始